



## ASPAC 済州大会 2017.3.9-11

第42回アジア太平洋地域年次総会は3月9日から3日間韓国済州島にある国際会議場で開催されました。済州島は、韓国の南西沖に浮かぶ火山島で現在は国際的観光地となっています。会場の済州島国際会議場は島の南西にあり、近年開発されたとても大きな国際会議場です。しかし空港からは遠く車で約1時間の距離にあります。日本からの距離は近いのですが、ダイレクトの飛行機便は少なく韓国の仁川経由もしくは中国の上海経由と時間的にはかなりかかる観光地といえます。主な観光客は中国人とのことですが、中国と韓国の外交関係に悪化から観光客が激減しているとのことでした。参加者の数は全体で815人、日本からは藤原ガバナー、棚澤会長と筆頭に70人を超える参加者がありました。昨今、退潮著しい韓国地区にとっては地区をあげての開催であり、かくも多くの参加者を集めることができたことは、今後の韓国地区にとって復調のきっかけとなることが期待されます。国際キワニスからもジェーン・エリクソン会長、ジム・ロッチフォード次期会長、ポリ・ラット副会長が出席されASPAC地域が国際キワニスにとって最も重要な地域であることが示されました。韓国地区の大きな努力もあって大会の各処に韓国の伝統芸能・文化が披露されるなど、大変楽しく印象的な大会となりました。総会では、次年



度役員人事、次年度以降の大会開催地、必要なASPAC規約の改正などが決議されました。これにより来年の開催地はマレーシアのクアラルンプール、以降2019年は台湾、2020年はネパールのカトマンズが決まり、2021年には日本地区から開催希望が表明されました。一方、国際大会は今年7月にパリで開催された以降北米以外では開催されないことが示唆されました。これは専ら経費上との理由ですが、今後議論を呼びそうです。因みに来年はラスベガス、2019年はオーランド、2020年はインディアナポリス、そして2021年はソールトレイクシティとのことです。

(吉田浩二 K J F 理事長)

## チェジュ(済州)は遠かった 2017.3.9



昨年の台湾(台中市)に続き、今年の韓国(済州市)のASPAC年次総会への参加は自分にとって懐旧の旅でもあった。前の会社で長らく海外事業を担当していたが、韓国と台湾の合併会社はもっとも古いもので、出張回数も数えきれない。中でも株主総会後の懇親会などで二度訪れた済州島は懐かしいところだから、10年ぶりの訪問を心待ちにしていた。

しかし、生憎その日は羽田からの直行便がなく、金浦(きんぽ)空港経由で、しかも飛行機の遅れもあって、わが家を出てから丸12時間かかり、10年の時空を経て韓国はまたまた「近くて遠い国」に戻ってしまった。

当時にくらべリゾート・アイランドとしてさらに発展していたのは事実だが、最近の中韓関係の悪化から中国人観光客が激減した(3月15日からは完全禁止)そうで、そのお蔭で島内巡り観光はまことにのどかであった。

さて、肝心の大会の印象はどうかと問われれば、正直なところ「今ひとつ」ではなかったか。韓国の政治情勢はご存じのとおりで、会期中に朴大統領が弾劾訴追で罷免され、やはり落ち着かない雰囲気での大会開催であり、韓国キワニスの方々的心中は察してあまりある。

開会式でのアトラクションは、定評ある K-POPS やサムルノリ(伝統楽器を使った音楽)などさすがに見事なものであったが、韓国側は公用語の英語をほとんど使わず、通訳にもやや難があり、その分もどかしい場面が多く、スムーズな進行とはいかなかった。

もっと残念だったのは、少々言いにくいのだが、夕食会が盛り上がりなかったこと。韓国文化の真髄は、「食事のもてなし」で、「お膳の脚が壊れるくらい多くの種類の食べ物を用意すること」で、「食事こそ韓国人にとってもっとも一般的な社会的活動のひとつ」と聞いていた身には、

なんとなく物足らず、同じような感想を漏らす人が少なくなかった。会場のコンベンションセンターは韓流人気ドラマの“オール・イン(ALL IN)”のロケが行われた場所であるが、2夜連続であつという間にどの皿も空っぽになり、ALL INならぬ“ALL OUT”であった。

各国・地域の活動報告も数字とI-PLANに沿った平板な説明が大半で、わが日本地区の藤原ガバナーの良く練られたスピーチには及ばなかった。国際キワニスの最大の関心事(心配事)は、ここ数年の会員数の伸び悩みであり、アジア・太平洋地域が頼みの綱であるだけに、成長著しい台湾などの具体的戦略などの披露がもっと欲しかった。

コンベンションは年に一度の「お祭り」であるから、エンタ色が大切なファクターではあるが、そのためには「職」、「飾」、そして「食」の程よいコラボレーションにも入念に気配りし、「わくわくして」「次のシーンを待つ」ような仕掛けを工夫すべしという教訓を残してくれたチェジュ(済州)大会であった。

(佐々木信行日本地区リーダーシップ研修  
コーディネーター)



## キワニスかんたん子ども料理教室 in 豊島園 2017.2.26

2月26日(日)に、西武豊島園でキワニスかんたん子ども料理教室を開催しました。豊島子ども WAKUWAKU ネットワークで面倒をみている子ども達25名、養護施設の石神井学園、西台子ども館から合わせて8名、柵澤会長のお孫さんにもご参加いただきました。サークルK武蔵野大学、立教大学から10名、当キワニスクラブから会員20名、関係者8名、この中には、国際キワニスマガジン記者のジャックさん、横浜クラブ会長も入っています。さらには、協賛していただきました豊島園からは、依田

社長、尾形取締役、料理長、スタッフも含め、総勢80名を超える大人数となり、貸し切り会場が満杯となる大盛況ぶりでありました。

今回は、国際キワニスの日本取材の一環として、東京クラブの子どもかんたん料理教室を取材していただくということで、この日が設定されたわけですが、当日は、参加者全員が、キワニス特製のエプロン、クッキングキャップを着用し、9テーブルに分かれ、「豚肉生姜焼き丼」「豚汁」「野菜サラダ」を一緒に作り、盛り付けをし、



一緒に話しながら食事をしました。

食事後に、全員で記念撮影をし、その後、子どもたちは、一斉に豊島園提供の乗り物券を持って、外に飛び出していきました。ジャックさんは、豊島園のスタッフのご案内で、回転木馬に乗せてもらい、まさに童心にかえったように目をキラキラさせ、大変ご満悦でした。この回転木馬は、110年前にドイツで作られ、ルーズベルト大統領時代にアメリカのニューヨーク・コニーアイランドの遊園地に移設され、同遊園地閉園の後には、今から50年ほど前になりますが、アメリカから貨物船で日本に運ばれ、豊島園に設置されて現在に至っており、2010年に機械遺産に認定されたという、大変歴史的価値の高い回転木馬ということです。



子ども料理教室の後は、豊島園近くの中華料理店で、会員有志によるジャックさんの慰労会を開催し、散会の運びとなりました。当日、多くの会員の皆様のおかげで、1年前から楽しみにしていた子ども達に心から喜んでもらえ、私どもも、子ども達からの笑顔を通じ、元気を頂く機会が持てました。改めてお礼申し上げます。

(狩野省市事業企画委員)

平成29年2月26日(日)の晴れ渡った暖かい日に「キワニスかたん子ども料理教室」が豊島園で行われました。私、本年1月に東京キワニス・クラブの会員となって、

初めての大きなイベントです。子ども達に喜んでもらえるであろうか、期待半分、不安半分でした。火傷など怪我なく無事に楽しんでもらえることを願って、イベントに参加しました。

集まった子ども達は小学生の高学年、中学生、高校生。彼らも期待半分、不安半分の様子でありました。参加した子ども達は、最初は遠慮が見られましたが、料理を始めると、仲良く作業を進めている様子であり、安心しました。



子ども達が作った料理は、「豚肉生姜焼き丼」と「味噌汁」でした。豚肉生姜焼き丼は各テーブルで1つだけ、子ども達が料理することになっていました。料理長からの料理方法の説明と実演があり、9つのテーブルに戻って、料理を実施しました。我々のテーブルで料理を担当したのは小学校高学年の男子。最初は恐る恐る料理をしていたが、だんだん慣れてきて、フライパンを扱う手つきも上達し、見事に完成しました。味噌汁は味噌を加える前の状態まで準備がされており、仕上げの味噌をといて鍋に加えて完成させました。味噌汁は全員分をお椀につけ、テーブルに運ばれました。

その後、食事となりました。豚肉生姜焼き丼は料理した1つと残りは、スタッフの方々が作成した生姜焼きを各自が盛り付け、サラダ、飲み物をテーブルにセットし、皆で食事をとりました。料理した本人は自身で料理した豚肉生姜焼き丼を自慢げに食べていました。他の子どもも自分の分を料理できる時間があれば良かったのかもしれない。豚肉生姜焼き丼を2杯、3杯と御代わりしていた子どももおりました。食事中は、日々の暮らし、クラブ活動、将来の夢で盛り上がりました。やっているスポーツを熱く語っていた子ども達が印象的でした。

始まる前の不安は不要でした。子ども達はすぐに打ち解け、皆と協力してイベントを盛り上げることができました。サポートしていただいた学生の方々の協力も大きかったと感謝しております。初めての子ども達とのイベントでしたが、社会の宝である子ども達への支援を今後も継続して行きたいと強く感じた1日でした。

(雲類鷲孝事業企画委員)

2月26日の日曜日、穏やかな天候の中で「かんたん子ども料理教室」は開かれました。日曜日ということで多くの人々が賑わっており、今回はじめて訪れた豊島園ではありますが、その雰囲気には癒されました。

料理教室でのメニューは「豚肉生姜焼き丼」と冷蔵庫にあるものでかんたんに作れるようになっていました。最初は緊張してぎこちない様子の子どもたちでしたが、いざ料理が始まると協力しあって作ろうとしているのが印象的でした。味も、自分たちで作った料理は深みも想いも増しているのではないのでしょうか。去年と同じメニューと聞きましたが、「去年食べたあの生姜焼き丼をもう一度食べたかった!」という声が聞こえたことから、この料理教室は子どもたちの心に深く残っているのだと感じました。

そして、この料理教室のもう一つの醍醐味は、「みんなと一緒に食べる。」ということだと思います。幅広い年齢の人々が同じテーブルに向かい合って座ると、様々な年代の話を聴くことができます。例えば、私のような一人暮らしの大学生は、「朝、時間がない時は朝食を抜きがち。」など様々な問題が浮かび上がってきます。いいことも悪いことも、子どもたちにとっては「食」について考えるきっかけとなり、理想の未来を描く道標になるのではないかと思います。

今後もサークルK 武蔵野大学は、幅広い年代のつながり、連体感を大切にしていきます。

(サークルK 武蔵野大学 Connect 近藤翔真)



キワニスクラブ会員の皆様、サークルKの方々、またこのレポートの読者の皆様、初めまして、中村 翔と申します。普段は、立教大学にて勉学に励む学生で、毎週火曜日に豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク（以下 wakuwaku）主催の学習支援を池袋で行っています。私とキワニスクラブとのつながりは、キワニスクラブ活

動レポート Vol.28 にのっている、「子ども食堂でチャリティーシンポ」というチャリティーからの付き合いになります。内容につきましては活動レポートの通りでありますので省略させていただきますが、多くの方々の温かい協力のもと、素晴らしい会を運営することができたと感じられる会でありました。だからこそ、キワニスクラブ様には感謝をしておりますし、こうして活動報告ができることを光栄に思っております。

さて、今回、「キワニスかんたん子ども料理教室 in としまえん」というものに参加させていただきました。大まかな内容になりますが、としまえんにて、みんなで楽しく美味しい料理を作り、お腹一杯になった子ども達と元気に遊ぶという内容でしたといった内容でした。僕自身の役割は、wakuwaku で預かった子どもたちを池袋まで安全に返すということでしたので、池袋から皆でとしまえんに行き、できるだけ皆で帰るようにして、思い出を共有できるようにしました。後日、子どもたちに感想を聞いたところ、口をそろえて「楽しかった、また行きたいな!」と口をそろえて言っていました。この言葉は、キワニスの方々子どもたちにとって、とても素敵な環境を用意して下さったことによって、生まれたものであると思います。また、この一言だけでも、2.26のために時間をかけて準備したことが報われました。

この会を通じて私自身感じたことは2つあります。まず1つ目は、運営するということへの“姿勢”です。私はいつも学生同士の会議や学生と大人の会議にしか参加できずにいました。しかし今回、子どもの安全・安心を提供する責任を担う立場として、また wakuwaku の代表として、会議に参加することになりました。子どもたちが100%以上喜んでくれる方法は何のような形であるのかという主張をお互いに譲り合うことなく、まるで真剣試合のように話し合っていました。このような場は、子ども達のことを真剣に思い、彼・彼女等の未来に対して熱心に考え、行動されている大人がいるからこそその行動であり、私は感動しました。一方で、私はここまでしているのかと、準備不足を痛感しました。これらが私の感じた、運営“姿勢”です。

次に子どもの“仕草”です。キワニスクラブ会員である大嶋さんから料理教室中に、「ここにいる子ども達特別な状況を抱えているなんて考えられない、それくらい楽しそうに動いている。」というご指導がありました。僕はここに子どもの貧困をなくすために考えなくてはならない重要な問題点があると思います。それは、子どもたちの行動が無意識的に制限されているということです。家庭の事情というものは各々あると思われます。ですが、子どもた

ちがやりたいことを素直にやりたいと言えない、そのような状況が子どもたちにとって当たり前になってしまっている。そのような意味で、子どもたちの行動が無意識的に制限されているという表現であり、子どもの貧困を考える上で重要な観点であると思います。この経験から、子どもたちの自由な発想や考えの中から、自ら発言し行動ができるような環境を作る上で、子どものちょっとした仕草に意味があること、そしてそれを掴み、生かすことの意義を改めて感じることができました。だからこそ、

私は子どもたちの“仕草”を意識しました。

以上のように、2つの側面をこの料理教室で感じました。1つ目がこの会を行うということの“姿勢”、2つ目がいつも何気なくしている子どもの“仕草”です。

最後に、今回企画を考えて下さったキワニスクラブ様、感謝申し上げます。また、特に狩野様には大変勉強させていただきました。重ねてお礼申し上げます。

(立教大学・WAKUWAKU ネットワーク 中村翔)

## ラフィエットクラブからの訪問団 2017.3.30

昨年創立100周年を迎えたラフィエットクラブは、州都で国際本部のあるインディアナポリスから北西100キロのウエストラフィエットにあり、現在100名を超えるメンバーを擁します。東京クラブは、昨年半ばこの歴史あるラフィエットクラブと姉妹クラブ関係を結びました。この合意事項の中に人的交流の推進がありますが、皮切りにラフィエットクラブから4名の代表団が日本訪問をされました。代表団のメンバーは、メンバー歴28年のカミラさん、2年のニーナさん、バイスプレジデントのダイアンさん、そして前会長の尾形さんの4人です。ダイアンさんは2年後に会長に就任予定とのこと。皆さん有名大学パーデューユニバーシティの関係者です。同大学には活発な活動を誇るサークルKがあります。また、東京クラブがサークルKの設立支援をした武蔵野大学とも交換留学の制度をもっています。今後の両大学のサークルKの交流に発展して行くことが期待されるようです。代表団は、3月30日から4月7日まで桜の季節に滞在され、東京クラブの例会への出席、座間アメリカン高校のキークラブとの意見交換、東京クラブ歓迎会ディナ、武蔵

野大学サークルKのメンバーとの東京観光、京都、広島ほか関西方面観光、芦屋クラブサークルKとの桜祭りでの交流、3.11東日本大震災被災地視察そして東京クラブ送別ディナと、短い期間でありながら積極的に日本の名所を訪ねて、沢山の日本のキワニアンとSLPの若者たちと交流を深められ、無事帰国されました。この訪問にあたり、芦屋クラブと仙台クラブの多大なご協力を得ましたことを申し添えます。

(吉田浩二 K J F 理事長)



## 靖國神社「慰霊の泉」献納記念昇殿参拝に参加して 2017.3.28

今年も、例年どおり、靖國神社「慰霊の泉」献納記念昇殿参拝が行われ、私も初めて参加しました。この日、3月28日は、奇しくも私の64回目の誕生日だったこともあり、記憶に残る昇殿参拝となりました。参集殿でお茶を頂いた後、棚澤会長ら総勢20数名の会員の方々とともに、本殿に向かいました。先ず手水で手を清め、口もすすいだ後、静かに頭を下げてお祓いを受け、それから、本殿に進んで玉串を捧げ、二拝、二拍手、最後に

一拝して本殿から下がりました。本殿は厳かな雰囲気にも包まれており、多くの犠牲の下に今の平和な時があることを想い、戦争のない平和な世が続くように祈らないではおれませんでした。受付で、撤下品の羊羹をいただいた後、神職の方の案内で、慰霊の泉に向かいました。靖國神社は平成31年で御創立150年になるそうで、その150年記念外苑事業の一環として、慰霊の泉及び周辺の整備が行われていました。そのため、慰霊の泉周辺は、

一般の方は立ち入り禁止となっておりますが、慰霊の泉の前で、参拝者一同の記念写真を撮影しました。慰霊の泉及び周辺の整備後の完成予定図も見せて頂きましたが、見違えるほど立派なものとなりそうです。来年も、慰霊の泉の清掃に参加し、他の会員の皆様とともに、昇殿参拝をしたいと思いました。

(大野重國事務局長)



## 妙法寺子ども食堂 2017.4.4

好天と満開の桜に恵まれた4月4日（春休みの最後）、古刹堀之内「妙法寺」での第2回目の「子ども食堂」を開催致しました。

今回は地元の方々が中心となって運営し、我がクラブは共催者として学士会館精養軒のカレー・紙食器そして山口会員を先頭に17名の逞しい労働力を提供しました。来訪者は320人。

子ども達は食事や手作りのデザートの後、茶道体験・バルーンアート作り・プラバン作りなど3時間をたっぷり楽しみました。

参加会員はお寺や地元の皆さんとの協賛者のそば店での「反省会」をさらに大いに楽しんで散会となりました。

(鈴木祐二事業企画委員)



4月4日、満開の桜の中、杉並区堀ノ内の妙法寺にて『みょうほうじ子ども食堂』を催し、320名もの親子に参加して頂きました。

企画・実行隊長の鈴木祐二さんのもと、藤原ガバナールはじめ、若い方々を中心に東京キワニスクラブメンバーの精鋭が子どもたちに、学士会館精養軒から提供されたビーフカレーや、NPO法人すぎなみのたね提供のサラダやデザートを配りました。

また会場には、茶道体験コーナーやバルーンアート作りなどの遊び場もあり、子どもたちのたくさんの笑顔と笑い声で満ち溢れており、子どもたちからは「みんなと美味しいカレーを食べられて楽しかった」「また来年もやってほしい！」との声も聞かれ、私達も大忙しの中、自然と笑顔でした。子どもたちの笑顔と東京キワニスクラブ・妙法寺の精鋭たちみんなで作りに上げた『みょうほうじ子ども食堂』は昨年続き大盛況の内に幕を閉じることができました。

最後に、今回の『子ども食堂』の記事が4月5日版の



読売新聞・産経新聞に大きく取り上げられました。こうした記事を取り上げてもらうことにより『子ども食堂』

がさらに世の中に浸透していくことを願います。

(山田明彦会員)

産経新聞 平成 29 年 (2017 年) 4 月 5 日 水曜日

読売新聞 2017 年 (平成 29 年) 4 月 5 (水曜日)

### 無料で食事提供 折り紙・バルーン作り

## 「子供食堂」で地域交流

厄除けの御利益で知られる杉並区堀ノ内の妙法寺で4日、子供たちに無料で食事を提供し、折り紙やバルーン作りを楽しむ催し「みょうほうじ 子ども食堂」が開かれました。寺で開催する子供食堂は珍しく、初めて開催した同寺の総務部長、望月隆行さん(44)は「いろいろな形で地域の親子さんたちが交流できる場を目指したい」と話している。

子供食堂は、一人親や共働き家庭、経済的な理由で十分な食事を取れない子供を救うため、子供に来てもらう食事提供です。折り紙やバルーン作りは、子供が楽しみやすい活動で、食事は地域のボランティアなどが手掛ける。

**杉並・妙法寺**

「みょうほうじ 子ども食堂」は、妙法寺近くのボランティアから近隣の区から提供されたボランティアが提供する「みょうほうじ 子ども食堂」が主催。この日は30人以上の親子連れが参加し、折り紙やバルーン作りを楽しみました。寺の総務部長、望月隆行さん(44)は「いろいろな形で地域の親子さんたちが交流できる場を目指したい」と話している。

「みょうほうじ 子ども食堂」は、妙法寺近くのボランティアから近隣の区から提供されたボランティアが提供する「みょうほうじ 子ども食堂」が主催。この日は30人以上の親子連れが参加し、折り紙やバルーン作りを楽しみました。寺の総務部長、望月隆行さん(44)は「いろいろな形で地域の親子さんたちが交流できる場を目指したい」と話している。

### みんなでいただきます 杉並・子ども食堂



地域の子どもに無料で食事を提供する「子ども食堂」が4日、杉並区堀ノ内の妙法寺で開催され、親子連れら約30人が参加した。

社会福祉団体の「東京キワニスクラブ」と「妙法寺子ども食堂実行委員会」の主催。同寺での子ども食堂は昨夏に続いての回目で、この日は七夕飾りや折り紙、飲み物が無料で振る舞われた。

会場には、ボランティアやバルーンアート作りなどの遊び場も設けられた。母親たちと一緒に参加した同区の高橋日吉ちゃん(6)は「みんなでおいしくいっしょに食べられるのがいい」と笑顔を見せてくれた。

地域の子どもに無料で食事を提供する「子ども食堂」が4日、杉並区堀ノ内の妙法寺で開催され、親子連れら約30人が参加した。社会福祉団体の「東京キワニスクラブ」と「妙法寺子ども食堂実行委員会」の主催。同寺での子ども食堂は昨夏に続いての回目で、この日は七夕飾りや折り紙、飲み物が無料で振る舞われた。会場には、ボランティアやバルーンアート作りなどの遊び場も設けられた。母親たちと一緒に参加した同区の高橋日吉ちゃん(6)は「みんなでおいしくいっしょに食べられるのがいい」と笑顔を見せてくれた。

## ユースフォーラム 2017.3.16

3月16日(木)に山梨県の身延山高校で東京キワニスクラブのユースフォーラムを開催しましたので報告します。

身延山高等学校は山梨県南巨摩郡にある日蓮宗の総本山である久遠寺に隣接した私立高校です。約3割の生徒の実家がお寺であり、久遠寺の宿坊に寄宿して修行をしながら通う生徒もいる学校です。同高の手話クラブが東京キワニスクラブ青少年教育賞を受賞したことをきっかけにユースフォーラムのメンバーとなり、同校が中心と

なり他のユースフォーラムのメンバー3団体を集め、第2回のユースフォーラムを同校で開催しました。因みに第1回のユースフォーラムは約1年半前にICUで開催されています。東京キワニスクラブからは棚澤会長、木本青少年委員長、杉田元Kファミリー委員長と私の4名が参加しました。他の参加団体はいずれも青少年教育賞を受賞しユースフォーラムメンバーとなっているJunko Association、東京国際基督教大学劇団「虹」とかものは



しプロジェクト「ゆるかも」の3団体です。

棚澤会長は前週に濟州島から戻ってきたばかりでしたが、木本さん、私の3名で新宿駅のバスタ新宿から7時45分発の高速バスで身延山を目指しました。中央高速を約1時間半走り、甲府南インターから一般道に降りさらに2時間走って11時過ぎに身延山参道のバス停に到着。そこからタクシーに乗り換え5分で身延山高校に到着。先に着いていた杉田さんと合流し、身延山高校茶道部による歓迎のお茶会に参加した。他の3団体は共同でマイクロバスを借りてほどなく到着し、関係者が揃いました。

12時45分に手話クラブの司会により開会。校長先生挨拶、オープニングセレモニー（成功祈願法要、雅楽演奏）のあと、東京キワニスクラブ紹介のプレゼンを行い（和氣）、棚澤会長にご挨拶頂きました。引き続き、参加3団

体が世界各国、国内での活動の紹介のプレゼンテーションをパワーポイント（含む動画）を使って行い、熱心な質疑応答がありました。劇団「虹」は二人のみの参加であった為、劇の代わりに中で歌われる曲の紹介も行いました。15時に無事終了し、生徒会長（僧修行中の高校2年生）の案内で久遠寺の主要な建物を見学した後解散しました。我々は17:10発のバスで新宿に向かい20:30にバスタ新宿に到着しました。棚澤会長曰く、「濟州島より遠かった」とのことでした。お疲れさまでした。今回のユースフォーラムは身延山高校が中心となって企画頂き、東京キワニスクラブが共催という形でしたが、ユースフォーラムのメンバーが主体的に取り組んで実現したものであり、本来の目的に沿った形であると思います。キークラブ設立にも繋がるものと考えます。

（和氣秀樹Kファミリー委員長）

## 西松建設・戸田建設ドールをつくる会 2017.3.10

3月10日、西松建設と戸田建設合同による第1回のキワニスドールをつくる会が開催されました。両社は、平成11年から業務提携関係にありますが、CSR活動では初めてのコラボレーションということでした。CSR担当役員を含めて両社合わせて約30人の方々に参加され、お互いに自己紹介をしたり、情報交換をしたりしながら、和気藹々の雰囲気の中でドール作りを楽しんでいただきました。お手伝いする我々も企業提携という大きな背景の中で両社合同でワニスドール作りが行われたということに、いつもの活動とは一味違ううれしさもありました。

西松建設、戸田建設ともキワニスドールの会は今回が初めてですが、ここ数年このように企業でのキワニスドール作りが増加しております。企業を取り巻く環境の変化の中で多くの企業がCSR活動に力を入れ始めており、その対象として、手軽で社会貢献の実感が持ちやすい活動として注目されているからでしょう。昨年度、東京キワニスクラブが開催した「つくる会」は31回を数えますが、



そのうち企業での回数が11回になっております。これからも企業からの「つくる会」開催の要望は増えてくるものと思われまます。会員の皆さんの一層の協力をお願いいたします。

（中村禎良ボランティア活動委員）



## ウエルズファーゴ銀行東京支店ドールをつくる会 2017.6.8

2017年6月8日(木) 18時からウエルズファーゴ銀行東京支店様で4回目の「クワニスドールを作る会」が開催されました。2015年12月15日に第1回が開催され、それ以降、毎年6月、12月に開催され、今回が第4回となりました。

ウエルズファーゴ銀行東京支店様のボランティア活動として、支店内の有志の方々が、今回は12名(第1回(17名)、第2回(16名)、第3回(9名))参加されました。全員が過去に参加された経験があり、2回目の方々が2名、3回目の方々が4名、4回目(毎回参加)の方々が6名でした。クワニスドール作成はウエルズファーゴ銀行東京支店様の24階の会議で実施され、窓のブラインドを上げていただく、八重洲、丸の内が一望できる絶景でした。

経験者の方々と言うことで、早速クワニスドール作成に取り掛かりました。冒頭、星会員から、「最終的な品質の判断はドールを使う子ども達であると言う認識を持っていただき、



今日はそれらの子ども達が満足するような良いドールが作成されるよう、厳しく評価しますので、宜しくお願いします。」との言葉から始まりました。

作成の過程で、皆様は積極的に、星会員、高橋会員にアドバイスを求められ、両会員も時には厳しく、時には優しく指導され、子ども達が喜ぶ顔を思い浮かべながら、和やかな雰囲気の中、集中して作成していただきました。

18時から開始し、19時45分までに12名の方々に、24個のクワニスドールを作成していただきました。終了後、記念撮影を実施。次回のクワニスドール作成を楽しみに、更なる技術の向上を目指したいとお話をいただきました。東京クワニスとして、継続してクワニスドール作成を実施していただける方々を増やしていく活動が重要であると改めて認識した1日でした。

(雲類鷲孝ボランティア活動委員)

## 2017クワニスドール・フェスティバル 2017.5.20

5月20日(土) 14時より「2017クワニスドール・フェスティバル」が大手町パソナグループ本部会議室で開催されました。クワニスドールをつくる会、寄贈先医療機関、クワニスクラブ等から約130名が参加し、開始前に会場は満席となりました。

山口知子副会長の開会挨拶後のトークセッション「子ども達とドールのふれあいエピソード」では、癌研有明



病院、日本大学病院、国立がん研究センター中央病院の看護師、保育士、子ども療養士の方が、医療現場でクワニスドールが使われている実際の様子や子ども達の反応について、スライドを使ってわかりやすくご説明してくださいました。日大病院では、クワニスドールセットという透明なプラスチックボックスに、ドールやペン・クレヨンを入れて、入院時にお渡しするということでした



が、お子さんの入院生活がまさにドールとともにスタートする様子が臨場感いっぱいにも語り、辛い経験の中にもドールが癒しの役割を担っているのだと小さな感動を覚えました。

また、今年2月に入会された鈴木健次郎会員からは、米国ワシントン駐在時代に、3才のお嬢様が骨折したときのキワニスドールとの出会いについてご紹介いただきました。現在は順天堂大学でお医者様をされている麻衣さんからは、骨折患部のギブス装着中、いつも片手にロリーチャンと名付けたドールを持っていたこと、柔らかいドールの感触と共に骨折を乗り越え安堵感を持たせたこと等をお話いただき、大いに感動いたしました。ご両親もドール効果にはたいへん感謝されたということでしたので、ドールがお子さんだけでなくご家族にも癒しの効果をもたらすということを改めて思いました。

休憩後のドールづくりでは、キワニスドールをつくる会をご支援いただいているナーレの会、小さな天使等の皆様にもお手伝いいただき、多くの参加者がドールを完成することができました。アンケートには、活用事例を踏まえてドールづくりすることは意義があり、今後もドールづくりに参加したいという回答が78%にものぼりました。

私は今年の入会ですので、ドールづくりは二度目、そしてこのフェスティバルは初めての参加でしたが、キワニスクラブの社会貢献・ボランティア活動の源ともいえ

るキワニスドールの活動を誇りに思い、広めていきたいと改めて思いました。

今回、会員一同の協力体制のもと、キワニスドール・フェスティバルを成功裏に開催できたことで、準備期間からのやりとりを振りかえり、東京キワニスクラブの底力を再認識いたしました。

(高山温子ボランティア活動委員)

電気新聞 2017年(平成29年)6月1日(木曜日)

## 病気の子どもを支援 東京キワニスクラブ 都内で人形作りイベント

入院中の子どもに対する治療の説明、親元を離れる不安の解消などに使われる人形「キワニスドール」に関するイベントがこのほど、都内で開催された。東京電力OBら企業関係者も参加する単位「東京キワニスクラブ」が主催した。一般ボランティアや協賛企業などから100人以上が参加。どのように人形が役立つのか現場の話を共有したり、実際に人形作りを体験したりした。イベントは「キワニスドール」フェスティバルと題して2009年に始まり、毎年この時期に行っている。米田が発祥のキワニスドールは、白い生地と綿を詰めた小さな人形で、医療機関に寄贈される。寄贈された人形は医療関係者が絵を描いて病状や治療の説明をしたり、子供が顔や洋服を描いて入院中のおもちゃとして使われたりする。

当日はトリクセッションと題し、医療現場で働く看護師や医療士など、子供と人形のふれあいイベントや子供が人形をもつた際、どのような反応をするか参加者に説明を行った。登壇者は、キワニスドールを「子供にとって一緒に頑張れる同士の保護者との駆け橋」と表現し、参加した支援者へ感謝の意を示した。その後、参加者は人形作りを実際に体験。前もって人形の形にカットされた生地、50%の綿を詰め込み、開口部を縫って完成させる。東電OBで、キワニスドールとして活躍する星利樹さんらも指導役として参加。早い人は30分ほどで完成させていた。



東電OBの星利樹さん(奥)らが、人形作りを指導した



## 「個性派ガイドによる『谷根千ミステリー散策ツアー』」に参加して 2017.4.1

4月1日(土)エイプリルフール。数日続いた暖かい陽気が一転、小雨がちらつき、肌寒い生憎の空模様となりました。参加予定の皆さまが集まっていたかどうか、正直心配しましたが、集合時刻には全員お集まりいただき、根津駅から散策スタート。

まずは、根津の奇跡と呼ばれる大阪のうどん店(隈健吾氏が改築した日本庭園付きの店舗)「釜竹」に入り、山口副会長のご挨拶のあと、名物のうどんのほか、数万円する江戸切子のグラスで飲んだ冷酒、めざしというイメージとは異なる美味しいメザシなどを堪能しました。ガイドの川崎氏からは店の由来や食事の内容に関して説明があり、外の寒さを忘れての盛り上がりとなりました。

その後、川崎ガイドの案内で根津・千駄木の路地を散策、へ〜っと思うような意外なお店(煎餅屋、魚屋、飴細工屋、



(根津・千駄木の路地散策風景)

風呂桶屋など)を見物しながら根津神社へ。昇殿参拝では、磯田副会長に玉串奉納をお願いし、全員が月次花御札を授与されました。

最後は旧安田邸と庭園。日本三大財閥の総帥のお屋敷内を案内してもらった後、2階の和室から眺める一本桜(しだれ桜)の見事さに感激。この寒さでは開花が遅いであろうとなかばあきらめていただけに満開に近い桜の花に見とれたひと時でした。

寒い中、3Km近い距離を一緒に散策していただきました会員の皆さまに心から御礼申し上げます。

(山下朗裕レクリエーション委員長)



(旧安田邸のしだれ桜<2階和室より>)

## 「弦楽四重奏と美味しいランチ in 学士会館」に参加して 2017.4.29

ゴールデンウィーク初日の4月29日(土)に学士会館でチャリティイベント「弦楽四重奏と美味しいランチ in 学士会館」が開かれました。これは「由緒ある建物で素敵な音楽とランチを楽しむ会」シリーズの第2回目として企画されたものです。

今回は、キワニスのボランティア活動の大きな柱である子ども食堂のサポートをしてくださっている学士会館の大坂勝総料理長にメニューのプロデュースをお願いし、音楽は大山平一郎氏が代表を務める Music Dialogue メンバーに演奏を依頼しました。会場の設営も、本来のステージは使用せず、ホール中央に演奏者を囲む形で座席を配置、演奏者の息遣いが聞こえるような近さで音楽を楽しんでいただきました。曲目はモーツァルト、シューマン、ボロディン、ドヴォルザークの弦楽四重奏曲。皆さんに素敵な演奏を楽しんでいただけたのではないかと感じました。

後半は、大坂シェフに料理の解説をしていただいた後、食事会開始。棚澤会長のご挨拶、乾杯に続いて懇談に入りました。ランチには会員のほか、大坂シェフ、大山さ



(演奏会の後は美味しいランチ<棚澤会長のご挨拶>)

んはじめ演奏家3名、子ども食堂でご協力をいただいているPTAの関係者など、70名近いメンバーが参加され、各テーブルが音楽やキワニス活動の話題等で盛り上がっていました。当日は好天にも恵まれましたので、会終了

後に皇居周辺の散策を楽しまれた方も多いようです。ご参加いただきました皆さま、有難うございました。

(山下朗裕レクリエーション委員長)



(大坂シェフ、演奏家を囲んでの集合写真)

## 「裁判員裁判の傍聴と東京地検見学ツアー」に参加して 2017.5.18

平成21年5月にスタートした裁判員制度は今年で9年目を迎えました。国民の関心が高く、20歳以上で衆議院議員の選挙権があれば、原則として誰でも裁判員に選ばれる可能性があるとはいえ、実際に裁判を傍聴する機会がなかったため、今回の見学機会は大変貴重でした。

5月18日(木)の朝9時20分に東京地方裁判所前



(模擬取調室にての説明<棚澤会長側が検事席、林会員側が被疑者席>)

に集合。10時開廷なのでもう少しゆっくりでもよいかと考えていましたが、40分には既に満席。裁判員裁判に対する関心の高さを実感しました。勉強のため傍聴にきている大学生が多かったようです。

今回の裁判は、宅配ピザ店での強盗傷人事件。9名のうち3名が裁判官、6名が裁判員。比較的若い人が多かったのが印象的でした。70歳を超えると裁判員を辞退することができる由で、それも高齢の裁判員が少ない理由かと感じました。また、後ろの席に補充裁判員2名が座っており、裁判員に欠員が生じた時にすぐに交替するそうです。裁判員が被告人に真摯に質問する様子は参考になりましたが、事件の内容や被告人の状況(今回は被告人が容疑を認めていたので、質問に対し素直な印象でした)により、大きく変わるであろうことも想像できました。

午後からは東京地方検察庁を見学。検察官の仕事、役割に関する説明のほか、日頃なかなか見ることのできない庁内施設も拝見できてとても有意義な1日でした。

(山下朗裕レクリエーション委員長)

## 第67回ファミリーデー 2017.5.26

東京キワニスクラブ発足と同時に始まったファミリーデーは、今年で第67回目を数えることになり、5月26日（金）17時30分から文京区の椿山荘プラザタワー9階「アザレア」で開催されました。最近続けて利用していた大手町の銀行倶楽部は改修のため使えず、鈴木祐二会員のご紹介により、今回は初めて椿山荘が使われることになりました。最初の内は集客が心配されましたが、各会員のお声掛けや千葉キワニスクラブ鍋木元会長のご参加などもあって全部で71名の出席となりました。人数は昨年の68名とほぼ同数ですが、会員の参加は39名に止まり、今後どのように開催して行くのが良いのか、検討課題が残った気がします。

式次第は、大嶋事業企画委員長の司会のもと、棚澤会長の開会挨拶があり、続いてヒクソン・フェローの贈呈式が行われました。受賞者はダイヤモンド・ヒクソン・フェローの小島章伸会員とヒクソン・フェローの吉田浩二会員で、棚澤会長よりそれぞれ記念品が贈られました。

次いで、増田副会長の乾杯から、約1時間の食事・歓談の後は、エンターテイメントで「日本歌曲とオペラの名曲」のコンサートタイムとなりました。ご出演は、若手ソプラノの砂田愛梨さん、同じく安江秋さん、ピアノの松田紘奈さんの3人で、舞台を下りての客席へのパフォーマンスもあって非常に盛り上がった一時になりました。最後はアンコールの声に応え、「朧月夜」で締めくくりとなりました。

恒例の福引は磯田副会長の進行により、鉄川陽介会員のお嬢様である玲衣（れい）さん、愛実（あみ）さんの籤引きをお楽しみいただき、10数個の福引商品が当選となりました。締めは予定通り19時30分で、磯田副会長



の挨拶でお開きとなりました。

なお、寄付・福引代等は総額150,000円となり、木下功子会員からはコンパニオン2名を派遣して頂きましたことを、ご報告しておきます。

今回のエンターテイメントでは、新国立劇場オペラ研修所と東京芸術大学大学院オペラ科の優秀な歌手のお二人をお願いすることが出来ました。会の終了後に何人かの方々から「良かった」とのご感想を頂いたので、推薦者としての責任は何とか果たせた気がしています。エンターテイメントはご出席の皆様の楽しみの一つなので、どんな出し物にするのが良いのか、また知恵を絞っていききたいものだ、と考えています。

一方、会場の椿山荘は最寄の目白駅からはバスでの来場になるなど、交通の利便性ではやや問題がありましたが、それだけに庭園も広くファミリーデーにふさわしい大変綺麗な会場と感じました。今回の会場は9階の「アザレア」でしたが、来年も続けて使用するのであれば最上階の11階「マーガレット」を用意する、とのお話を椿山荘から頂いていますので、十分に検討したいと思います。

お陰様で盛会の裡に会を進めることが出来、ご協力いただきました棚澤会長を始め会員および事務局各位、藤田観光株式会社と椿山荘のご関係各位に、厚く御礼申し上げます。

（大嶋英一事業企画委員長）



2017年2月～2017年5月までの活動

2017 年 2 月	3	第2247回例会(露口洋介氏)
	5	第52回文楽を楽しむ会
	7	火曜会
	7	札幌クラブ雪まつり例会
	9	第89回日本酒を楽しむ会
	10	東京医療秘書福祉専門学校ドールをつくる会
	11	第6回オペラを楽しむ会(蝶々夫人)
	12	第52回文楽を楽しむ会
	14	火曜会
	16	小さな天使 ドールをつくる会
	16	第27回ワインを楽しむ会
	17	第2248回例会(牧野知弘氏)
	19	第52回文楽を楽しむ会
	21	火曜会
	23	宝塚観劇会(月組公演)
	26	キワニスかんたんこども料理教室(豊島園)
	27	MSD(地域指導者育成研修)
28	火曜会	
28	第112回囲碁愛好会	
2017 年 3 月	3	第2249回例会(武藤正敏氏)
	7	火曜会
	9	第90回日本酒を楽しむ会
	11	A S P A C 済州大会
	10	西松建設・戸田建設ドールをつくる会
	14	火曜会
	16	第2回キワニスユースフォーラム
	17	第2250回例会(増田恵子氏)
	17	第77回国際懇話会(講師:佐渡島 志郎氏)
	18	コンサート(ソヘグムとピアノが綾なす調べ)
	21	火曜会
	26	第7回オペラを楽しむ会(ルチア)
	28	靖國神社「慰霊の泉」献納記念昇殿参拝
	28	火曜会
	28	第113回囲碁愛好会
31	第2251回例会(柴谷哲朗氏)	

2017 年 4 月	1	個性派ガイドによる「谷根千ミステリー散策ツアー」
	4	火曜会
	4	春の「妙法寺子ども食堂」
	6	宝塚観劇会(宙組公演)
	7	第2252回例会(柯隆氏)
	11	火曜会
	13	第91回日本酒を楽しむ会
	18	火曜会
	19	春季ゴルフ大会
	19	第78回国際懇話会(講師:矢野義博氏)
	21	第2253回例会(卜部敏直氏)
	25	第1回歴代会長懇談会
	25	火曜会
	25	第114回囲碁愛好会
29	弦楽四重奏と美味しいランチin学士会館	
2017 年 5 月	2	火曜会
	9	火曜会
	11	第92回日本酒を楽しむ会
	13	田園調布学園ドールをつくる会(土曜プログラム)
	16	火曜会
	16	ジェーシービードールを作る会
	18	裁判員裁判の傍聴と東京地検見学ツアー
	18	第28回ワインを楽しむ会
	19	第2254回例会(尾島未輝氏)
	20	ドールフェスティバル
	21	第53回文楽を楽しむ会
	23	火曜会
26	第2255回例会(第67回ファミリーデー 於:椿山荘)	
27-28	大相撲夏場所	
28	第53回文楽を楽しむ会	
30	火曜会	
30	第115回囲碁愛好会	

## 2017年6月～9月 今後の予定

2017 年 6 月	2	第2256回例会(内多勝康氏)
	6	火曜会
	8	ウェルズファーゴドールを作る会
	8	宝塚観劇会(星組公演)
	8	第93回日本酒を楽しむ会
	9	大阪クラブ設立50周年記念行事
	11	スピカ チェロとピアノの調べ
	13	火曜会
	16	第2257回例会(植村修一氏)
	20	火曜会
	23	東京見学はとバスツアー
	27	火曜会
	27	第116回囲碁愛好会
	30	第2258回例会(田中聡明氏)
2017 年 7 月	3	第79回国際懇話会(講師:サード・アルカティープ氏)
	4	火曜会
	6	宝塚観劇会(雪組公演)
	7	第2259回例会(玉井和博氏)
	8-9	歴史と文化の町萩訪問と奨学生を励ます旅
	11	火曜会
	13	第94回日本酒を楽しむ会
	13-16	第102回国際キワニス年次総会パリ大会
	18	火曜会
	21	第2260回例会(久元祐子氏)
	24	京都クラブ「祇園祭(後祭)例会」
	25	火曜会
	25	第117回囲碁愛好会
	26	サマーパーティ(ライオン銀座7丁目クラシックホール)
31	東京医科大学霞ヶ浦専門学校ドールをつくる会	

2017 年 8 月	1	火曜会
	2	夏の「妙法寺子ども食堂」
	4	第2261回例会(大泊蔵氏)
	8	火曜会
	15	火曜会
	18	第2262回例会
	22	火曜会
	22	第118回囲碁愛好会
2017 年 9 月	24	宝塚観劇会(花組公演)
	29	火曜会
	1	第2263回例会(第51回キワニス社会公益賞表彰式)
	3	第54回文楽を楽しむ会
	5	火曜会
	8	第41回国際キワニス日本地区年次総会松江大会
	10	第54回文楽を楽しむ会
	12	火曜会
	14	第95回日本酒を楽しむ会
	15	第2264回例会
	19	火曜会
	21	宝塚観劇会(月組公演)
26	火曜会	
26	第119回囲碁愛好会	
29	第2265回例会	
30	青少年教育賞表彰式&交流会	

■平成29年5月31日現在 総会員数 213名

■平成29年2月1日から平成29年5月31日までに入会された方 1名

鈴木健次郎

## 東京クラブの活動

### ● キワニスドール

身長約40cmで体重約50g、とても素朴な形で、目も鼻も口もありません。ただ一つ身に付けているのは、キワニスマークの小さなラベルだけです。

しかし、このちょっと風変わりな、ノッペラボウの小さな人形が普通の玩具の人形とは違った方法で、全世界の病気の子どもたちに大きな力を与えています。キワニスドールは、病気の子もたちと仲良しになり、見守ることが使命です。

白い木綿生地にポリエステル綿を詰めただけのキワニスドール。ノッペラボウなのは、使う人が顔を描いたり洋服を描いたりすることができるようにしているためです。また、お医者さんや看護師さんが、治療の説明のために、人形に絵を描くこともできます。さまざまに描かれた人形は、病気のその子だけの人形になります。

キワニスドールは、メルボルンのナナワディング・キワニスクラブで、1988年に初めて作られました。メルボルンからオーストラリア全域で広がり、さらに1994年に北欧にも伝播しました。日本地区では2001年11月から取り組み始めました。現在では全世界のキワニスクラブでドールを制作して病院などに寄贈するという活動を行っております。

2009年から毎年、キワニスドールの利用事例などについての情報共有をはかり、作る側と利用する側双方の課題を議論し合う場として、キワニスドール・シンポジウム2016年からはキワニスドール・フェスティバルを開催しています。

キワニスドール (Kiwaniis Doll) を平成18年7月14日に、商標登録し、平成28年4月19日に更新いたしました。

### ● キワニス子ども食堂

ひとりっ子・共働き・シングルマザー・ファザー等から「孤食」が増加する中で、世代を超えて楽しく語り合いながら、「美味しく」食べる機会の提供として、「キワニス子ども食堂」を学生会館精養軒等とともに開催しています。また、その進化系として、「キワニスカんたん子ども料理教室」を豊島園の協力を得て開催しています。

### ● キワニス奨学金 (児童養護施設卒園進学者支援制度)

児童養護施設から大学・短大・専修学校への進学者向けに年間40万円 (最長4年間) の奨学金 (生活サポート) 制度を2016年にスタートさせました。現在は2名の学生を支援しています。奨学金は会員からの寄付で賄っています。

### ● 表彰

キワニス「社会公益賞」 社会公益のために長年献身的に取り組んでいる団体を表彰しています。

東京キワニスクラブ「青少年教育賞」 国際的な活動を含め奉仕活動に積極的に取り組んでいる青少年団体を表彰しています。

キワニス「奉仕賞」 キワニスクラブの奉仕活動に協力する学生サークル、団体を表彰しています。

### ● SLP (学生・生徒版キワニスクラブ) 活動

高校生のクラブ、座間アメリカンハイスクール・キークラブと大学生のクラブ、サークルK武蔵野大学、若者による既存のサークル活動を支援するキワニス・ユースフォーラムがあり、若者のボランティア活動を支援しています。

## キワニスクラブとは

キワニスクラブは、“世界の子もたちのために”を合言葉に奉仕活動を行う民間の世界的な団体です。1990年からは、特に幼い子どものための奉仕活動に力を入れています。名称のキワニスは、デトロイト周辺に住んでいたアメリカ先住民の言葉“Nun-Kee-Wanis” (みんな一緒に集まる) に由来します。

キワニスクラブは、1915年1月21日米国デトロイト市で生まれました。当初はアメリカとカナダで発展していましたが、1963年にはヨーロッパ3都市に広がり、現在世界の約85ヶ国、7,300のクラブ、約20万人の会員が国際キワニスを構成し、その本部は米国インディアナポリスにあります。

日本では、東京キワニスクラブが1964年1月24日、アジア太平洋地域で最初のクラブとして設立されました。次いで名古屋、大阪、広島、神戸、仙台、札幌、横浜、高松、福岡、京都、千葉、和歌山、新潟、泉州、埼玉、西宮、福山、熊本、静岡、金沢、松江、鹿児島、芦屋、福島、大分、千代田、長崎、宮崎、佐賀、秋田、大垣、福井、沖縄、徳島の順に生まれ、現在35のクラブで会員は約1,950名で活動しています。東京キワニスクラブは、1967年2月27日社会奉仕団体として初めて、厚生大臣より社団法人の認可を受けました。2012年10月1日に一般社団法人に移行しました。

一般社団法人 東京キワニスクラブ 会長 棚澤 青路 〒101-0047 千代田区内神田2-3-2 米山ビル

Tel: 03-5256-4567 Fax: 03-5256-0080 e-mail: [tokyokiwanis@japankiwanis.or.jp](mailto:tokyokiwanis@japankiwanis.or.jp) URL: <http://www.japankiwanis.or.jp/tokyo>